

著作権保護期間延長と 青空文庫



日本はTPPをどう交渉すべきか
「死後70年」「非親告罪化」は文化を豊かに、
経済を強靱にするのか？』

2013年6月29日

著作権保護期間、死後50年の風景 途切れることのない公有作家の誕生

- 2009年 三好十郎、正岡容、徳永直、木村荘八、久保栄
 - 2010年 永井荷風、阿部次郎、高浜虚子、北大路魯山人、橘外生
 - 2011年 和辻哲郎、高木貞治、原田義人、加賀豊彦、吉井勇
 - 2012年 小川未明、柳宗悦、津田左右吉、古川緑波、青野季吉
 - 2013年 吉川英治、柳田国男、室生犀星、中谷宇吉郎、正宗白鳥
-
- 2014年 野村胡堂、山之口獏、太田洋子、長谷川伸、久保田万太郎
 - 2015年 三好達治、佐藤春生、高群逸枝、尾崎士郎、佐々木邦
 - 2016年 江戸川乱歩、谷崎潤一郎、中勘助、梅崎春生、米川正夫
 - 2017年 亀井勝一郎、大下宇陀児、鈴木大拙、山中峯太郎、小宮豊隆
 - 2018年 山本周五郎、壺井栄、時枝誠記、笠信太郎、柳原白蓮

死後50年から70年へ 公有化の20年先送り

- 2012年 小川未明、柳宗悦、津田左右吉、古川緑波、青野季吉
- 2013年 吉川英治、柳田国男、室生犀星、中谷宇吉郎、正宗白鳥

暗黒の
パブリックドメインデイ
20年



- 2034年 野村胡堂、山之口獏、太田洋子、長谷川伸、久保田万太郎
- 2035年 三好達治、佐藤春生、高群逸枝、尾崎士郎、佐々木邦

死後70年の風景 遠くなる “我らが時代の作家”

- 死後50年で権利が切れるのは
→1962年以前に他界した人
- 死後70年で権利が切れるのは
→1942年以前に他界した人

1943年 新美南吉、島崎藤村、徳田秋声、国枝史郎
1944年 中里介山、三上於菟吉、矢田津世子、河合栄治郎
1945年 野口雨情、橋本~~達吉~~、葉山嘉樹、薄田泣菫
1946年 武田麟太郎、伊丹万作、河上肇、岩波茂雄
1947年 織田作之助、幸田露伴、横光利一、狩野直喜

- 延長はなによりも、近代デジタルライブラリーを縛る。公共図書館も。青空文庫も。

Dead Writers Society

MANUAL_4 新新txt2xhtml NDL Search MANUAL_4 作業欄

Dead Writers Society

This work is dedicated to the [Public Domain](#).

Last updated: 2004.3.1

Dead Writers Society

死せる作家の会

あの人は今……死んでから何年？

～参考文献～
岩井寛編『作家の臨終・墓碑事典』東京堂出版,1997.6.10
『広辞苑・第五版』岩波書店,1998
市古貞次編『日本文学大年表・増補版』おうふう,1995.4.25
日本近代文学館編『日本近代文学大事典』講談社,1992.2.28
『増補改訂・新潮日本文学辞典』新潮社,1988.1.20
『著作権台帳・第23版』(社)日本著作権協議会監修,1995.10

この情報については何も保証いたしません。どの事典にも間違いはそれなりに……が、間違い、追加等ありましたら、お気軽に earthian@tama.or.jp までどうぞ。

昭和二十三年 (1948)

高須芳次郎 (1880.4.13~1948.2.2)
「」
菊池寛 (1888.12.26~1948.3.6)
「」
千家元麿 (1888.6.8~1948.3.14)
「」
真山青果 (1878.9.1~1948.3.25)
「」
土井八枝 (1879~1948.6.1)
「仙台の方言」「土佐の方言」
太宰治 (1909.6.19~1948.6.13)
「」
今井邦子 (1890.5.31~1948.12.15)
「」
小島島水 (1873.12.29~1948.12.13)
「」

昭和二十四年 (1949)

宇野円空 (1885.11.27~1949.1.1)
「宗教民族学」「宗教学」「マライシヤに於ける稲米儀礼」
牧野伸顕 (1861.10.22~1949.1.25)
「回顧録」
青木月斗 (1879.11.20~1949.3.17)
「月斗翁句抄」
島津久基 (1891.4.16~1949.4.8)
「対談瀧氏物語講話」「義経伝説と文学」
笹川臨風 (1870.8.7~1949.4.13)
「支那小説戯曲小史」「日本絵画史」「東山時代の美術」
長田秀雄 (1885.5.13~1949.5.5)
「歡樂の鬼」「大仏開眼」「浄海入道」「沢野忠庵」
中村武羅夫 (1886.10.4~1949.5.13)
「人生」「地霊」「誰だ？花園を荒す者は！」「明治大正の文学者」
海野十三/佐野昌一 (1897.12.26~1949.5.17)
「深夜の市長」「火風兵団」「地球要覧」
佐藤紅緑 (1874.7.6~1949.6.3)
「虎公」「富士に題す」「麗人」「あゝ玉杯に花うけて」「英雄行進曲」
姉崎鳴風 (1873.7.25~1949.7.23)

芥川龍之介の蜃気楼 1

私たちのやってきたこと、やろうとしてきたことは。

- 保護期間の延長は「公正な利用の促進を通じた文化の発展」に寄与しないと、かつて声を上げた。
- 今、この問題は「経済連携協定」の枠組みで再び論議されている。
- そう強いられることへの違和感。

.....時々私は廿年の後、或は五十年の後、或は更に百年の後、私の存在さへ知らない時代が来ると云ふ事を想像する。その時私の作品集は、堆い埃に埋もれて、神田あたりの古本屋の棚の隅に、空しく読者を待つてゐる事であらう。いや、事によつたらどこかの図書館に、たつた一冊残つた儘、無残な紙魚の餌となつて、文字さへ読めないやうに破れ果てゝゐるかも知れない。しかし――

私はしかしと思ふ。

しかし誰かが偶然私の作品集を見つけ出して、その中の短い一篇を、或は其一篇の中の何行かを読むと云ふ事がないであらうか。更に虫の好い望みを云へば、その一篇なり何行かなりが、私の知らない未来の読者に、多少にもせよ美しい夢を見せるといふ事がないであらうか。

私は知己を百代の後に待たうとしてゐるものではない。だから私はかう云ふ私の想像が、如何に私の信ずる所と矛盾してゐるかも知知してゐる。

けれども私は猶想像する。落莫たる百代の後に当つて、私の作品集を手にするべき一人の読者のある事を。さうしてその読者の心の前へ、朧げなりとも浮び上る私の蜃気楼のある事を。.....

芥川龍之介「後世」

芥川龍之介の蜃気楼 2

私たちのやろうとしてきたことは。

- 青空文庫の積み重ねを、“芥川の蜃気楼”、越しに、考え直してみる。
- 表現を極めようとする者の胸には、“芥川の蜃気楼”が生きている。私たちがめざしたのは、その蜃気楼によりそい、時を越えて生き続けることに力を貸すこと。
 - 出版
 - 図書館
 - クリエイティブコモンズ
 - デジタルアーカイブ
- 今、TPPの枠内で扱われようとしている表現の自由、拡散、保存と参照の機会の確保の問題は、本来、経済の枠におさまらない。経済を越えた要素を含む問題を、経済の枠内で扱う羽目に陥っているのだと、交渉担当者には胸に刻んでほしい。
- 本質においては表現の問題が取り扱われていると自覚するなら、国会図書館、公共図書館、そして青空文庫もまた、TPP利害関係者とならざるを得ない。
- 表現をめぐる戦いが、終わることはない。“そのあと”も続く。